

# 小児訪問看護を視野にいたした小児看護学教育の課題

竹 村 眞 理

## Future problem in the infant temporary nursing at home

TAKEMURA Mari

### 抄 録

在宅医療が推進される今日、小児の在宅医療を支える小児訪問看護の実態を踏まえ今後の小児看護学教育の課題を明らかにすることを目的に文献検索を行った。

我が国の人口動態が急速に少子高齢化をたどる医療・介護サービスの提供体制の改革が行われている。24年度、地域において全国105か所の在宅医療連携拠点としての取り組みの中で、小児の在宅医療に特化した3か所から得られた知見から小児と高齢者の在宅医療の異なる点が明らかになった。小児在宅医療の対象者は周産期になんらかの問題を原因とし、NICU退院後、在宅においても高度な医療の継続を必要とする小児である。

小児在宅支援には高度な医療介助と、小児の対応に精通した訪問看護師が必要とされていることから、看護基礎教育における小児看護学教育の課題として小児看護技術教育と共に、地域における家族および小児の生活に視野を広げる教育の必要性が示唆された。

キーワード：小児病棟看護の役割

小児の訪問看護

子どもと家族

## 緒 言

我が国の人口動態は、急速に少子高齢化へと進んでいる。平成26年3月現在で、医療・介護の制度改革の法案が審議された。この改革においては、病院病床機能の分化・連携で、高齢者の退院までの流れが確立され、受け皿となる在宅医療の充実が並行して課題となる。厚生労働省は在宅医療に関して平成24年以降、あらゆる施策を通して推進することに取り組んでいる<sup>4)</sup>。この事業の中で、対象になっているのは主に高齢者であるが、平成25年から小児在宅医療の体制の構築への取り組み<sup>1)</sup>がなされるようになった。

小児在宅医療の推進を阻む要因を、文献から探索し、看護基礎教育における小児看護学教育の課題を検討した。

## 方 法

1. 平成20年～25年の医学中央雑誌を用いキーワード「小児在宅医療」「小児訪問看護」で検索した。
2. 検索した32件の文献を文献の概要から二つに分け、各々文献の内容を項目に分け付記した。

## 結 果

32件の文献は大きく2つ 1. 小児在宅医療の対象者および必要としている医療の内容、2. 小児在宅医療の現状に分けられた。

### 1. 小児在宅医療の対象者および必要としている医療

在宅医療を必要としている小児患者の2/3が新生児期に発症した疾患を原因とし、高度医療の提供の継続を必要としている。20歳未満の超重症児は、7,000人が推計され、そのうちの7割が在宅ケア、1/4が人工呼吸器を必要としている。

- 1) 対象者：周産期の何らかの問題により NICU に入院した新生児

長期に NICU 管理を必要とした小児

- 2) 必要としている医療：人工呼吸器、経管栄養

### 2. 小児在宅医療の現状

- 1) 在宅診療所の受け入れ不足

在宅患者のうち人工呼吸器指導管理が必要な15歳未満の年齢群は、全年平均の3倍であるにもかかわらず、訪問診療を受け入れている診療所は5.3%にすぎない。

- 2) 在宅医療を受ける小児患者の状況

次の3点の医療を受ける15歳未満の小児の割合が高い<sup>2)3)</sup>。

- (1) 在宅成分栄養経管法

- (2) 在宅人工呼吸

(3) 在宅気管切開

3) 少子化の原因と、現在の小児の社会環境の特徴<sup>1)</sup>

現在の小児をとりまく環境の変化として、家族の多様化が進んでいること、晩婚化、晩産化が進み、29.3～30.9歳の初婚年齢の上昇が認められる。

4) 小児訪問看護師が考慮していること

- (1) 子どもの病状
- (2) 医療的ケアの内容及び家族の参加・習熟度
- (3) 発達段階
- (4) 家族が得られる支援の環境
- (5) 小児にとって安楽なケアの方法

5) 小児訪問看護を実践していない理由

- (1) 小児訪問看護の依頼がない
- (2) 小児看護の体験のある看護師がいないため対応できない
- (3) 小児のケアは特殊なため対応できない
- (4) 小児訪問の体験のある看護師がいないため対応できなかった
- (5) 小児医師との連携が取れずにできなかった
- (6) 基礎疾患が特殊で対応できなかった
- (7) 診療報酬が労力に見合わない

## 考 察

少子高齢化が認識されるようになった平成2年の1.57ショックは、昭和41年の丙午の合計特殊出生率1.58を下回った。少子化の原因及び、現在の小児の社会環境の特徴として、現在の小児をとりまく環境の変化として、家族の多様化が進んでいること、晩婚化、晩産化が進み、29.3～30.9歳の初婚年齢の上昇が挙げられる。このような状況は周産期に問題をもつ新生児の出生の増加に影響している。以前は救命不可能な状態で出生した新生児も NICU の医療の高度化により救命されるが、同時に大きな障害を後遺症として持つことを免れない<sup>1)</sup>。NICU から退院した小児は、多様化した家族の中に帰宅する。必要なのは、子どものケアを中心に家族間の生活の調整である。看護学生は看護基礎教育において在宅看護学実習で訪問看護を体験する。しかしその対象は比較的成人・高齢者に限られている。小児訪問看護は小児高齢者の訪問看護が看取りを視野に入れているのと異なり、将来生き続けることを前提としており、医療・福祉・教育の連携が必要となる。

先行研究の小児訪問看護は、障害児の訪問看護の事例を挙げているものであった。そしてその多くは、成功している事例<sup>3)</sup>である。これらの事例から小児訪問看護の重要な点を次のようにあげた。

1. 小児ケアについての研修（医療的ケア）
2. 小児と対応できる看護師

3. 小児特有の症状への対応 (感染症・けいれん発作等)
4. 家族との関係づくり
5. 医師との連携 (多領域の専門職との連携)

小児看護学では、あらゆる健康レベルの小児とその家族を対象に疾病からの回復および健康の保持増進を図り、小児個々の成長発達を促進することを学習の目的にしている。

目標は対象の理解および関係形成のとり方、治療処置を受ける子どもとその家族への支援を主にあげている。

しかし小児医療の動向から、小児訪問看護として看護の場の違いをふまえた目標を追加する必要があるのではないかと考え、上記の5つに関連させて小児看護学での展開を次のようにあげた。(1)医療的ケアの技術実践の基礎となる知識を学び、学内でシミュレータを使用して技術の演習をする。(2)小児訪問看護師の体験談から小児訪問看護の実際を理解する。(3)障害児のケアの実際を障害児施設で実習する。(4)子どもとの対応を幼稚園・保育園で実習する。(5)病児とその家族の関係について基礎となる知識を学ぶ、(6)学内で、病児の家族との関わりを演習する。(7)訪問看護の必要な小児が活用できる社会制度を学ぶ。

さらに小児看護学においても、小児訪問看護を認識した方向付けをすることで、訪問看護ステーションでの実習の幅を広げられるように準備する必要があると考えている。

## 参考引用文献

---

- 1) 奈良道明：小児在宅医療の施策現状と課題 小児看護 2014 37-8 へるす出版
- 2) 郷 更織, 山田真衣他：新潟県の訪問看護ステーションにおける小児の訪問看護に関する実態調査 新潟県立看護大学紀要 3巻 2014
- 3) 古田聡美：訪問看護種ターションにおける小児訪問看護の実際 鹿児島県の実態調査 鹿児島純心女子短期大学紀要 第38号 2008
- 4) 厚生労働省医政局指導課在宅医療推進室：平成26年度小児等在宅医療連携事業 2014

## Abstract

This study conducted a literature search to clarify future issues in pediatric nursing education, taking the state of pediatric home visit nursing supporting home care for child patients into consideration, as home care has become increasingly common in recent years. With the rapidly declining birth rate and increasingly elderly population in Japan, the system for providing medical and care services has been overhauled. In 2012, a national initiative involving 105 home care-related bases clarified differences between pediatric and elderly home care, based on research conducted in three facilities specializing in providing pediatric home visit care. The recipients of pediatric home care are children who have suffered some sort of problem perinatally; these children require continuous, advanced medical care once they have returned home after discharge from the neonatal intensive care unit. Pediatric home care support requires advanced medical care, thorough knowledge of how to treat pediatric patients, and visiting nurses with skills sufficient to allow them to understand both patients and their families. Results suggested that pediatric nursing education should not only impart skills but also expand students' perspectives to lives of child patients and their families in a community.

Key words : Pediatric home visit nursing

Child and family

Pediatric nursing education